

博物館だより

No.65

平成23年9月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

みやこ町古墳フォーラム(11/26開催)記念コンクール①

「わたしの町の過去・現在・未来」絵画コンクール



作品募集

～描いてみよう!みんなの町の「過去・現在・未来」～

◎絵のテーマ つぎのテーマのいずれか一つを選んでください。応募できる作品数は1人につき1点です。

「わたしの町の過去」部門 みなさんの町にある文化財(お寺や神社の建物、古墳、お祭り、古い道具、大きな木など)を描いてください。「古いもの」なら内容は自由です。

「わたしの町の現在」部門 みなさんの町の美しい風景や、好きな場所の様子を描いてください。

「わたしの町の未来」部門 みなさんの町が、ずっと未来にどのような町になっているか、または、どのような町になってほしいか、空想して描いてください。

◎画用紙のサイズ 八つ切りの画用紙を使用してください。使用する画材は自由ですが、油絵は応募できません。

◎応募資格 京築地区(京都郡・行橋市・築上郡・豊前市)に住んでいるか、または通学している小・中・高校生

◎応募方法 応募票(募集パンフレットをご覧ください)に必要事項を記入し、画用紙の裏面に貼り付けて、下記の応募先に郵送または持参してください。作品の応募は、学校単位、個人単位、どちらでも受け付けます。

◎応募締切 平成23年9月30日(必着)

◎応募先・問い合わせ先 みやこ町歴史民俗博物館「絵画コンクール」担当 TEL0930-33-4666

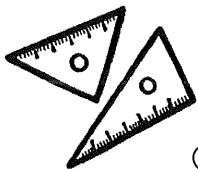
◎賞 グランプリ1点(優秀賞の中から選考)・優秀賞6点・佳作15点以内 ▶応募者全員に記念品を贈呈

◎表彰式 平成23年11月26日(土)、サン・グレートみやこ(みやこ町勝山黒田)にて開催する「みやこ町古墳フォーラム」で表彰。



みやこ町古墳フォーラム記念コンクール②

「歴史たんけん作文コンクール」



作品募集

～調べてみよう!日本の歴史、わが町の歴史～

◎募集する作文の内容 みなさんが住む町や地域の歴史、おしいちゃん・おばあちゃんに聞いた昔の話、歴史の本を読んだ感想、旅行先で調べた歴史など「歴史」に関することなら内容は何でもOK!

◎作文の枚数 作文は400字詰め原稿用紙3枚から5枚程度にまとめてください。

◎応募資格 応募できるのは、京築地区(京都郡・行橋市・築上郡・豊前市)に住んでいるか、または通学している小学5・6年生

◎応募できる作品数 1人につき1点

◎応募方法 作文には、氏名・学校名・学年を必ず書いて、学校単位または個人単位で下記の応募先に郵送または持参してください。

◎応募締切 平成23年9月30日(必着)

◎応募先・問い合わせ先 みやこ町歴史民俗博物館「歴史たんけん作文コンクール」担当 TEL0930-33-4666

◎賞 最優秀賞1点・優秀賞5点程度 ▶応募者全員に記念品を贈呈

◎表彰式 平成23年11月26日(土)、サン・グレートみやこ(みやこ町勝山黒田)にて開催する「みやこ町古墳フォーラム」で表彰。



詳しくは「みやこ町デジタル・ミュージアム」(<http://www.miyako-museum.jp>)に掲示の募集パンフレットをご覧ください。

みやこの歴史発見伝 50

古文書が語る村の生活と文化 5

「シーボルト台風」の襲来

文政11年の「歴史的」超大型台風

【史料】

一 日 前 夕 暮 時 頃 大 風 吹 出 候 頃 合 九 日 夜 九 時 分 方 大 風 二 相 成 最 初 東 風 二 而 夫 右 南 二 廻 り 益 手 強 く 八 時 過 西 二 廻 り 朝 五 時 過 風 軽 く 相 成 候 昼 四 時 過 吹 止 申 候

一 降 雨 者 格 別 之 大 雨 二 而 者 無 御 座 候 得 共 翌 朝 川 水 相 増 川 支 相 成 申 候 同 日 暮 前 川 明 キ 申 候

(長井手水大庄屋文政十一年日記八月十五日条)

【解説文】

一、風吹出候頃合、九日夜九ツ時分方大風二相成、最初東風二而夫右南二廻り、益手強く八ツ過西二廻り朝五ツ過風軽く相成候、昼四ツ過吹止申候

一、降雨者格別之大雨二而者無御座候得共、翌朝川水相増、川支相成申候、同日暮前川明キ申候

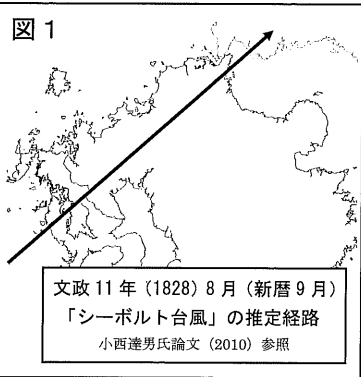
(長井手水大庄屋文政十一年日記八月十五日条)

上に掲げた史料は、文政十一年(八二八)に、長井手永(現みやこ町犀川地区のうち、今川喜多良川流域の十六ヶ村により構成された行政区)の大庄屋が、八月九〜十日(新暦九月十七〜十八日)に襲来した台風の様子を藩に報告した文書の一部です。意識すると「八月九日、次第に強くなってきた風は午前0時頃に大風となり、東↓南↓西と風向きを変え、午前七時過ぎに弱くなり、九時過ぎに吹き止んだ」「大雨は降らなかったが、十日の朝は今川が増水し、川を渡る事が出来なくなった。その日の暮れ前になって水が引いた」。

中秋の頃に多く発生する猛烈な台風は、観測技術が発達した現代でも大変な脅威ですが、予測予報が無い時代、突如襲いかかる大風雨への恐怖心は、現代人の想像を超えるものだったでしょう。

シーボルト台風

ところで、文政十一年八月九日から十日にかけて北部九州を襲ったこの台風、実は、弘安の役(二八二)で何万もの蒙古軍兵士



が犠牲となった台風を除き、明確な記録が残る範囲で、日本史上、最悪の被害を出した台風では、帰国を間近に控えたオランダ商館医シーボルトの積荷を載せた係留中の船が座礁。その修理の際、当時国外への持ち出しが禁じられていた日本地図が積荷から見つかり、関係した幕府の役人は処分され、シーボルトは国外追放・再渡航禁止となりました。「シーボルト事件」と呼ばれるこの一件にちなみ、のちに気象研究家 根本順吉氏(一九一〇〜二〇〇九)が、座礁の原因となった台風を「シーボルト台風」と名付けたのでした。ただ、近年の研究で、オランダ船の座礁とシーボルト事件は無関係であるとの説が有力になっていますが、「シーボルト台風」の通称は、まだ用いられています。

規模と進路および被害

小西達男氏(気象庁)の研究によれば、「シーボルト台風」は現長崎県西海市附近に上陸し、上陸直前の中心気圧は約九三五ヘクトパスカル、最大平均風速は五十五m/秒程度、進路は図1のように推定されるそうです。小倉藩を含む北部九州の被害は、死者が最大で約二万九〇〇〇人、全半壊した家屋は十二万軒以上にのぼったといえます(小西達男「1828年シーボルト台風(子年の大風)と高潮」)。

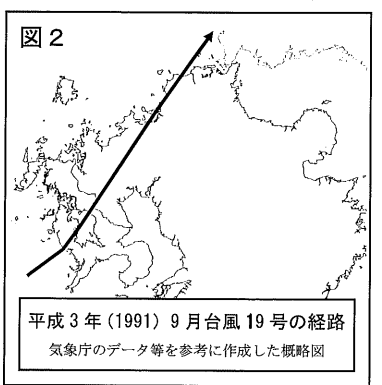
小倉藩領の史料から、当地の被害状況を詳しくみると、藩全体の死者は七十三人、人家の全半壊六八六二軒、稲屋など附属建物の全半壊は三七五九軒に及びました(『中村平左衛門日記』)。

平成三年台風十九号との類似
ところで、「シーボルト台風」は平成三年(一九九二)に北部九州及び東北地方に甚大な被害を及ぼした台風十九号と、その規模や進路(図2参照)が類似していたと推測されています。台風十九号の際、樹齢一〇〇年を超えるような大木が軒並み倒れたのも、それが「シーボルト台風」以来となる超大型台風の直撃だった証しと言えるかもしれません。

なお、文政十一年は八月二十四日(新暦十月二日)にも北部九州を猛烈な台風が直撃し、小倉藩領では二九八八軒の人家が全半壊したほか、出漁中の漁師八十八人が死亡するなどの大きな被害が出ました(同前書)。

文政十一年のような年は稀でしょうが、こういう「台風の当たり年」も有り得ることだけは覚えておきたいものです。

(川本英紀)



(掲載した史料は九州大学附属図書館付設記録資料館九州文化史資料部門蔵)